

平成 22 年度 第 2 回地域緩和ケアリンクスタッフ意見交換会 (2011.3.1)
グループディスカッション 発表内容

<テーマ>

- ① 困難事例や緩和ケア、看取りのことに
日常の仕事の中でどんな悩みを持っていますか？
具体的に何が足りないと思いますか？
- ② 悩みや不足点を解決するために
個人でも施設内でもよいので、努めてみたいこと、
必要と思ったこと、具体的に変わらそうなことはなんですか？

● G2 (介護施設グループ)

発表者 みずばしろう看護師 五十嵐美喜

- 悩み: 主治医の先生とかかりつけの先生などの連携がなかなか難しい
- 家族との信頼関係のきづきかた。残された時間をどのようにすごしたいのかなどを確認していくことが難しい
- みとりにかかわる上で、すべておこなうのではなく家族が少しでも満足できる看取りが行えるように支援していくことが大切
- そのためには安心感を持てるようにかかわっていく 勉強会
- 振り返ることも大切、ほかの方の経験を聞くことで自分の経験につながる

● G8 (在宅グループ)

発表者 とようらホームヘルパーステーションホームヘルパー 高橋千代栄

- 悩み: すぐにサービスをうけようとしている利用者。でも症状が進んでいないので家族患者が自分でやれると思っている⇒急激な変化への対応が大変。
- 通院していたが往診にかわった場合、痛みの訴えが強くなる方、食欲減退の方。
- 気持ちをペットが癒してくれる
- 家族が介護疲れしないようにしているが、逆に気を使わせてしまうケース
- 症状悪化、薬管理できない方への管理が薬局で行えるという情報あり
- 進行を見越した、福祉用具の準備を予測して準備が大変であった
- 一人の方にかかわる事業所が会に参加していくことも大切

●G5(在宅グループ)

発表者 鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センター社会福祉士 五十嵐貴明

- 悩み:医療用語が多くて勉強不足を感じる
- 看取りの方に対して、支援するにはパワーを使う。管理者の立場としてもスタッフのリフレッシュを考えることもひつよう
- ケアマネ 福祉用具のレンタルしかできない人に対しどういったことができるのかと悩む。
- 利用者の話を親身になって聞くことが大切
- 介護者が楽になる設備があるといいな
- 御用聞きになりたくないということも
- いろいろな会にでて関係を作ることも大切

●G9(在宅グループ)

発表者 老人保健施設かけはし 訪問入浴看護師 志田望智博

- 悩み:急変時の対応や、家族へのメンタル対応がどうしたらいいかわからない
- 訪問入浴中に主治医、訪問看護に連絡とれず亡くなったケースあり
- サービス担当者会議にNsなどにも参加してもらい、急変時の対応について確認を取ることも大切
- (和泉)退院カンファ・・訪問入浴やヘルパーが日常、患者さんに接する機会が多いので声をかけて参加していただいたほうがいいのでは。情報をしてほしい職種、事業所である。

●G6(在宅グループ)

発表者 鶴岡地区医師会在宅サービスセンター作業療法士 佐藤健一

- 自分で変えられること:問題を一人で抱え込まず一緒に考える場を職場の中に作る
- 問題、相談⇒手の空いている職員で相談⇒必要に応じてみんなで話し合いの場に進める

●G4(在宅グループ)

発表者 鶴岡協立歯科クリニック 歯科医師 柏木三穂

- 介護者の精神不安定なとき どの時点で相談すべきか
- 経済的なことも含め 早めのフォローアップ(行政含め)
- 家族との信頼関係をきずくまえに急激な変化
- 病院で家族の意向、方向をしっかりと聞いておくこと
- 話をしてもスルーされることもあるので家族複数きてもらい 家族間での意思統一も大切